ドンドン淵

澄んだ奔流の通り道

この一連の滝は権現岳の高い位置から流れていますが、下方からこの場所に続いている道の端から見えるのは滝の最後の数本だけです。ドンドン淵の名称は水が岩を打つ轟音を表す擬音語「ドンドン」と、滝の底の深い水溜まりを意味する日本語「淵（buchi）」を組み合わせたものです。過去には修行僧たちが激しい水の下で修験道の瞑想をするのにこの滝を使っていましたが、今日では夏の暑さから逃れるために水溜まりに水浴びにやって来る家族連れによってより頻繁に使われています。

滝の流れる岩場は、溶岩流ではなく溶結凝灰岩と呼ばれる多孔性の火山性物質で形成されています。溶結凝灰岩はろ過装置の役割を果たすため、この場所の水はとても透明で純粋です。この純粋な水はこの地域を稲作に適した場所とし、この水のためにアユ（sweet fish）は海からこの滝に向かって川を上ります。沿岸ではホタルが夏の夜を明るく照らします。